

軽井沢土曜懇話会

第7回 10月22日(土) 15:00~

ヴァイオリン コンサート

ヴァイオリン 大津 純子

ピアノ 岡田 知子

『自由と無限性への憧れ』 ~R. シューマンを巡るロマン派の巨匠たち

18世紀から19世紀にかけて、ヨーロッパ全域に大きな影響を与えたロマン主義。元来、「ロマン」とは物語・長編小説を意味しますが、自由奔放な空想や無限性への憧れを追い求める、この文学・哲学上の一大思潮は、音楽の世界にも深く浸透していきます。

自らの人生を、「ロマン」そのものに生きた作曲家、ロバート・シューマン(1810~1856)。“狂気の死”に至る彼の生涯は短くも熱く、音楽における<新しい道>を常に探し続けるものでした。

詩的・文学的標題を取り入れた彼のピアノ音楽では、古典的な形式とロマン性豊かな表現が合体していますし、歌曲においては詩と音楽の融合が試みられています。また、室内楽曲や交響曲などのあらゆる分野に、生き生きとした生命力とリリズムに溢れた多くの作品が生み出されています。彼の評論家としての活動はドイツ音楽界に強い刺激を与えました。

シューベルト、ブラームス、そして、シューマンの妻・クララ・・・R.シューマンを取り巻くこれらの偉大な音楽家たちの作品を通し、彼らの愛、友情、苦悩、憧れ、心の葛藤などを映し出し、彼らの生きた社会と人々の繋がりを浮き彫りにしてみたいと思います。

~ プログラム ~

*フランツ・シューベルト (1797~1828):

ソナチネ第2番 イ短調 Op.137の2

*クララ・シューマン (1819~1896): 3つのロマンス Op.21

*ヨハネス・ブラームス (1833~1897): 歌曲より

*ロベルト・シューマン (1810~1856):

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ短調 Op.105

ほか

(曲目は変更の可能性があります)

大津 純子(おおつ じゅんこ) ヴァイオリニスト

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NY を拠点に演奏活動開始。

ジュネス・ミュージカル・インターナショナル及び、カーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム：<The Artistry of Junko Ohtsu>のパブリック TV ネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にて、ロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。『ヴァイオリンの詩』、『アメリカ』(1998年、"レコード芸術"誌「室内楽準推薦盤」に選出)、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリース。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。2002年、自ら企画・プロデュースする『Good Old Days』室内楽シリーズ：アメリカの<素敵な時代>を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった"知られざるアメリカ"にスポットを当てた意欲的な好企画として、大きな注目を集める。2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤允彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しもう - という意図のもと、『Junko and the Night and the Music』シリーズを開始。3人の異なるバックグラウンドを生かしたユニークな企画は大好評を得ている。

岡田 知子(おかだ ともこ) ピアニスト

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトへ留学。声楽の伴奏、器楽とのアンサンブルを学ぶ。K・シルデ、G・バイセンボルンに師事。1976年同校を首席で卒業。1977年1月ベルリン、メンデルスゾーン・コンクール、ピアノ・トリオ部門第一位受賞。同年10月ジュネーブ国際音楽コンクール、ピアノ・トリオ部門第二位(一位空席)及びスイス特別賞受賞。1978年帰国、以降アンサンブルピアニストとして活発なコンサート活動を続けている。

また来日演奏家との共演、CD録音、コンサートのプロデュース等々、多方面で活躍している。毎夏、草津夏期国際音楽祭、そしてスイスで開かれるチューリヒ・マスター・コースに専属ピアニストとして招かれている。